

# 2024年度ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 氏名 奥村啓太

## 〈研修概要〉

2025年2月25日から3月6日の10日間、ベトナムでの海外研修に参加しました。本研修はホーチミン市とフエ市を訪れ、病院での臨床実習では実際にポジショニングや機器の操作を行いました。さらにフエ市ではフエ医科薬科大学の学生との交流プログラムに参加し、フエ市の様々な観光地を訪れました。

## 〈研修参加の目的〉

中学生の頃から海外に対する関心が高まり、初めてシンガポールを訪れた際、異文化を体験することの楽しさや、それが自己の成長に繋がることを実感しました。この経験を通じて、海外に行くことの魅力や価値を深く感じるようになりました。将来、診療放射線技師という職業を目指す中で、海外での経験を活かしたいと考え本研修に応募しました。本研修には、臨床実習や交流プログラムを通じて異国の生活・文化、医療の違いを体感し、国際的な視野を獲得をすること、そして「異文化交流から、新しい価値観や考え方を学ぶ」ことを目的として参加しました。

## 〈研修で学んだこと〉

### 【チョーライ病院での研修】

ホーチミン市のチョーライ病院での研修を通じて、医療の現場における日本との違いを多く学びました。

特に、日本の病院との違いとして、患者さんや検査の数が桁違いに多いことや、操作室と検査室が繋がり患者さんの個人情報が見えることなど、たくさん印象に残ることがありました。プライバシーの配慮が日本ほどされておらず、この光景がベトナムでは通常であったため、日本のプライバシー保護が過剰に思える場面もありました。日本では、患者さんや検査の数がベトナムと比べて少ないため寄り添うことを重要視した接遇を行っていますが、多くの検査を実施する必要があるベトナムでは最低限の接遇に留める必要性があるのだと感じました。

また、病院での研修の中で、ベトナムの診療放射線技師の方たちとの交流を深め、先生方から直接学べたことも貴重な経験でした。技師さんとの交流では、現地の医療技術について多くのことを学びました。特に、診療



▲チョーライ病院での臨床実習

放射線技師としての役割や使用機器について詳しく説明を受け、撮影後の処理工程や、患者さんへの接遇の仕方など実務的な工夫について理解を深めました。

この交流を通じて、医療技術だけでなく、患者さんとのコミュニケーションや医療現場でのチームワークの大切さを再確認しました。これらが国や地域を問わず、医療において重要であることを学び、将来の自分のキャリアにも大きな影響を与える学びでした。異なる文化や背景を持つ技師さんとの対話は、医療環境に対する理解を深めるとともに、国際的な視野を広げるうえで非常に貴重な経験となりました。



▲チョーライ病院のスタッフとの集合写真

### 【ホーチミン観光】

ホーチミンでの観光では、ベトナムの様々な生活文化に触れることができました。ホーチミン市内の歴史的な名所を訪れ、ベトナムの歴史と文化に触れることもできました。特に、戦争証跡博物館では、ベトナム戦争の影響を強く感じ、当時の写真などから戦争の悲惨さを認識しました。大量に撒かれた枯葉剤による奇形の胎児や地雷で脚を失った兵士の写真などがたくさん展示されており、ベトナム戦争について深く学ぶことができました。それを乗り越えたベトナムの人々の強さに深い感銘を受けたとともにベトナムの歴史の一つを知れて良かったです。また、市内の賑やかなマーケットやカフェ文化の体験に加え、フォーやバインセオなど有名なベトナム料理を食べることができました。その上で、ベトナムの日常生活の豊かさや、人々の温かさにも触れることができました。



▲ベトナム戦争証跡博物館

### 【フエ医科薬科大学での病院研修】

フエ医科薬科大学での病院研修を通じて、ホーチミンのチョーライ病院とは少し違った病院の雰囲気や医療環境について貴重な経験を得ることができました。研修では、単純X線撮影の技術を実践的に学び、ポジショニングやX線管球のセッティング、患者さんの対応を現場で実践しました。ベトナムの診療放射線技師の先生方と共に日本との違いを学びながら、現地の患者さんとコミュニケーションを深めることができました。

また、ポジショニングの実践経験が少ない中でしたが、一つずつ丁寧に教えていただいたことで、胸部と腹部の基本的な撮影ができるようになりました。撮影の方法や体表の基準の合わせ

方は、私たちが講義で学んだものと変わりありませんでした。さらに、患者さんの骨格に応じた具体的なポジショニングの方法を教えていただいたので、日本での臨床実習よりも、より実践的で具体的な臨床実習ができました。他にも、CT検査やMRI検査も見させてもらい、現地の学生さんが静脈路の確保を行なっている場面や、一連の検査に積極的に参加している姿を見て同じ職業を目指す学生としての学び方の違いを感じました。日本の臨床実習ではベトナムと同じように医療行為は中々できませんが、可能な範囲で積極的に取り組むこと



▲フエ医科薬科大学附属病院での病院実習



はできると思いました。そのため、ポジショニングをさせていただける機会や貴重な症例を見せていただける場面などがあつた際は、積極的に行動したいと思いました。

### 【フエの学生との交流】

ベトナムの文化を体験する機会として、現地の学生たちとの交流がたくさんありました。実習後、学生たちに案内してもらい、フエ市内の観光スポットや地元の料理を楽しむことができました。フエの学生さんは非常に親切で、私たちが訪れる先々で温かく案内してくれました。移動の際バイクに乗せてもらったことや、常に私たちに細やかな気配りをしてくれたことなど、感謝しきれないほどです。一緒に食べたブンポーフエやバインミーなど、ベトナムの伝統的な料理を味わうことができ、その美味しさだけでなく、料理に由来する文化や歴史をフエの学生に教えてもらいました。食事を共にすることが文化的なつながりを深める手段であることを実感し、言葉の壁を越えて、異文化の中でも心を通わせることができるという点に大きな喜びを感じました。料理がその土地の文化や歴史を反映していることを学び、食を通じて人々の暮らしを知ることができたことは、とても貴重な体験でした。

フエの街中で見た伝統的な建築様式にも感銘を受けました。フエは歴史的な都市であり、皇宮や寺院など、古い街並みそのまま残されている場所が多くありました。特に、フエの「チャンティエン」と呼ばれる橋は、夜になるとライトアップされ、美しい景観を楽しむことができました。この橋の周辺は観光地として賑わっており、地元の人々だけでなく、観光客も集まる場所でした。川沿いを歩きながら、ベトナムの歴史や文化を感じ、建物や景観がその国を表現していることを体感しました。フエでの文化体験や観光を通じて、ベトナムの人々の温かさや文化、そして日常生活の一部として根付いた価値観を学びました。医療や技術的な学びだけでなく、文化的な背景を理解することが、今後の国際的な視野を広げるためにも非常に重要であると感じました。この経験は、将来、異文化の中で働くことがあつた際に必要となる柔軟な思考や、他者との共感を育む上で大いに役立つものになると思いました。

### 〈まとめ〉

本研修を通じて、ホーチミンの診療放射線技師の方々やフエ医科薬科大学の学生さんなど、たくさんの人と出会えたことがこの研修の一番の刺激になりました。特に、現地の医療施設での臨床実習では、日本とは異なる検査の進め方や患者さんとの接し方を実際に見させていただき、医療現場でのアプローチの違いをより深く理解することができました。これらから、日本での当たり前が一つの考え方に過ぎず、多様な考え方を持つことが大切であることを学びました。

それが、自分自身の選択の幅を広げてくれると感じました。さらに、ベトナムの方々の温かさや親切さに触れ、人への思いやりの大切さを改めて学びました。この経験は、将来医療職に就く自分にとって、患者さんへの姿勢を再確認する貴重な機会となりました。異文化の中でのコミュニケーションを重ねることで、柔軟な思考や適応力を養い、新しい価値観や考え方に触れ、視野を広げることができました。研修を通じて、異文化交流の素晴らしさを実感し、この貴重な経験が今後の自分の成長に繋がると感じています。日本との違いを体感したことや人への思いやりの大切さを再認識できたことで



▲チョーライ病院のスタッフさんの感謝会



▲フエの学生とのパーティー

自己を大きく成長させたと思います。さらに、就職したい病院を決める一つの条件として海外との交流を持つる病院に就職したいと思いました。将来について考える今、就職したい病院の一つの条件を見つけさせてくれたこのベトナム研修には本当に参加してよかったと思います。

〈謝辞〉

本研修において携わっていただいたチョーライ病院とフエ医科薬科大学の皆様には多大なご指導ご鞭撻を賜わりここに深謝の意を表します。また、フエ市にて同行して下さった玉木長良学長、引率して下さった霜村康平先生、石田翔太先生、本谷崇之先生に心から御礼申し上げます。そして、研修を共にした11人の学生たちに感謝申し上げます。最後に今回の海外研修に関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。